福山市議会・水曜会　平成27年　4月号

ゆうすけ通信

発行責任者／福山市議会議員 大田 祐介
後援会事務所／〒720-0825
福山市沖野上町3-6-33
TEL:084-932-7855
FAX:084-921-8801
vol.14

福山市は来年「市制100周年」を迎えます

ゲストランナーの福元選手と

市制100周年記念マラソン大会

私は一昨年より鞆・高島・水呑3学区のご協力を得て「鞆の浦駅伝」を開催し、鞆マラソン開催への呼び水となるよう下準備を行ってきました。そして来年2月、竹ヶ端陸上競技場をスタートして鞆の浦に向けて走る「第35回ふくやまマラソン」の開催が決定しました。このコース設定は以前より私が提案してきた内容です。風光明媚なマラソンコースとして脚光を浴びることは間違いなく、全国から多くの市民ランナーを呼び寄せて福山市の知名度向上に貢献し、共に100周年を祝いたいものです。

著書「永遠の四一・歩兵第四一連隊の足跡を訪ねて」好評発売中

明治41年に広島市から福山町に転営した41連隊は、大正5年の市制施行に多大な貢献を果たしました。
市制施行のルーツ、その知られざる郷土の歴史を発掘する内容です。

B5版560ページ　定価4,100円（送料510円）
出版：㈱福山健康舎　☎084-931-4572
注文：FAX 084-921-8801（住所・氏名明記）
「大田ゆうすけ」のホームページから注文できます。「啓文社」各店でも販売中

ご遺族からの手紙

私の頭の中はグルグルと「永遠の四一」の中です。この本は読み応えがある本ですね。
それぞれの人のドラマとエピソードが盛り込まれている、福山歩兵第41連隊はそこにあり、そこで勇敢に戦った…
その中に、末太郎さんもいた。そのことを、忘れないで、語り繋いでほしいと…
そして大田さんは、福山歩兵第41連隊の方から選ばれた人だと思います。
私たちはその恩恵で、末太郎さんのことを深く理解することができています、今も進行形ですけど…
大田さんは41連隊のことがすぐにわかってさすがです。
大田さんの勧めもありましたし…　備後護国神社の慰霊碑に私の母とお参りに行きました。
母は少し膝が悪く歩くのが困難です。
慰霊碑にお参りも済ませたし、護国神社本殿は下からの参拝で終わろうとしましたところが…
杖もなく支えもないのに、その階段を自分であがりました。
びっくりです、びっくりでしょう。
後から母曰く「まあ～あがれたわ～末太郎さんが後ろからおしてくれたんじゃろ～か???」
その日から、なんか母はとても元気です。
二言目には「末太郎さんは食べ物もなかった…それを考えたら…ダイエットくらいなんでもないことじゃろ」
「末太郎さんはさみしい思いをしているじゃろけ～レイテに慰霊にいかにゃ～…」
「プールに行って、もっと歩けるようにならにゃ～レイテにもいけん」
末太郎さんからのあたたかいメッセージを母も受け取り、今を元気に過ごすことができているようです。

出版記念パーティーにて、元兵士達と

山野町の再生・活性化に取り組む

福山市最北端のまち山野町の活性化策として、古民家を改修して農家民宿「やまの宿・西元」とし、そこでしか飲めない「山野峡ワイン」の製造に取り組みます。今春、ワイン用ぶどうの苗を1000本植えました。

さらに内閣府・地方創生推進室の進める構造改革特区制度を活用し、ワイン製造における規制緩和を求める「ふくやまワイン特区」を申請しました。

親善友好都市との関係

タクロバンの時計台
経済リポート H26.11.1「祐介の目」

10月初旬、韓国の姉妹都市・浦項市の山岳会一行が大山登山に来日された。私は福山山岳会による歓迎会にて「国と国の関係は雲の下の話、貴達山を愛する者は雲の上で交流しましょう」と呼び掛けたところ、拍手喝采であった。

同時期に日韓トップ囲碁対局が鞆の浦で開催されたが、イベントの陰の主役は故木谷実九段の子息である木谷正道さんだ。木谷さんは両国の課題解決に向けての囲碁活用の可能性を探っている。私も関係改善には何か共通する趣味を媒体にするのが有効と感じている。

ハワイの姉妹都市マウイ郡にも9月末に福山市訪問団を派遣し、島最大のイベント「カウンティフェアー」に参加することが恒例になっている。しかし、ハワイと言えば真珠湾、マウイも日本軍潜水艦による砲撃を受けている。私も訪問し、日系人の多いマウイにおいて戦中・戦後に彼らが舐めた辛酸の歴史を伺った。彼らの苦労を土台にして、今後どのように関係を発展させていくかが課題だ。マウイは自然豊かな島、高校生や大学生の交換留学により交流を拡大させたいものだ。

フィリピン・レイテ州タクロバン市はまさに戦争の歴史の上で姉妹都市となった。今年はマッカーサーのレイテ島上陸から70周年、10月20日の上陸記念日には盛大な式典が開催された。アキノ大統領は「70年前、日本軍の軍政から解放され我々は自由を取り戻した。しかし、日本も今は平和国家となり、良き友達である」と友好的なスピーチをされた。

戦後、日本兵は「トロボウ」「バカヤロー」の罵声を浴びて引揚げ船に乗り込んだが、その後の日本の支援が認められ、今では親日国と言って過言ではない。上陸記念式典でお会いした元ゲリラの老人は「私の兄はバターンで戦死したが、今日からお前は友達だよ」と受け入れてくれ、心癒される一瞬であった。

皆さんもぜひ福山市の親善友好都市を訪れていただきたい。その民間交流こそが国際間の関係改善の一歩になる事は間違いないだろう。

11月1日は古典の日

百人一首
経済リポート H26.12.1「祐介の目」

紫式部日記の寛弘5年11月1日の記述に、酒に酔った藤原公任から「あなかしこ、このわたりに若紫やさぶらふ」とからかわれたとある。「若紫」は源氏物語の登場する若い姫君であることから、年増の紫式部は頭に来たのだろう。しかし、この記述が日本を代表する古典文学である源氏物語が歴史上はじめて記録された日であることから、平成24年より「古典の日」に制定されたのだ。

今年の古典の日には、私の恩師である元広大附属福山高校の副校長であった落健一先生による講演会「源氏物語と百人一首」が開催され、県民文化センターが満員となった。

古典と言えば堅苦しく敷居の高いイメージがあるが、落先生の軽妙かつ興味深い講演に皆引き込まれていた。例として、源氏物語に鞆の浦の情景描写があるが、紫式部が鞆を訪問した記録は無い。しかし、紫式部の祖父が「備後守」であったことから、祖父より鞆の情景を聞いたのではないかと推定ができるという。

それにしても昨今の古典ブームには驚くばかりで、古典ゆかりの神社仏閣を巡るようなツアーは大人気だ。福山にも明王院にある「三十六歌仙絵扁額」や、国際収蔵館の「絵入源氏挿絵貼屏風」などは大変なお宝である。これら福山の持つ古典ゆかりのお宝をもっとPRすれば、多くの人が福山を訪れるだろう。

さらに百人一首と言えば、私は中学生の時に百人一首大会で優勝した経験がある。別に百首を全部憶える必要は無く、「決まり字」憶えて「秋の田」とくれば「我が衣手」という具合に、歌の持つ意味など関係なかった。しかし、大会が古典に親しむ良い機会となった事は間違いない。私は全中学校で百人一首大会を開催するよう議会で提案している。

落先生の講演によれば、源氏物語と百人一首の関連性は本当に奥が深い。百首の歌に隠された源氏物語に対するメッセージを解析する楽しみを知れば、さらに古典ファンが増え、来年はリーデンローズが満員になるだろう。

日本の漁業改革

大田泰正後援会長と小林代議士
経済リポート H27.1.1「祐介の目」

師走の総選挙が終わった。福山の投票率は47％という低率であったが、短期決戦ゆえに候補者の訴えが有権者に届かなかったのかもしれない。

小林史明候補が訴えていた政策の中に、漁業の資源管理という聞き慣れない言葉があった。じつはこの2年間、彼が自民党内で最も注力したのがこの問題だったそうだ。彼が代表を務める「若手水産研究会」は個別漁獲枠（IQ＝Individual Quota）制度導入を柱とする提言をまとめ、今後、水産部会などで議論を深め、政策としての実現を目指しているそうだ。

従来の日本の漁業は獲れるだけ獲りつくすスタイルであり、北海道にはニシン御殿が建ったが、その結果ニシンはいなくなった。今や数の子はほとんど輸入である。瀬戸内海でも一昔前に鞆に行けばシャコが千円でバケツ一杯買えたが、今やシャコやワタリガニは高級食材だ。マンガ漁という カギ爪付きの底引き網で根こそぎ獲ってしまったからではないか。

海外に目を向けると、ノルウェー、米国など、多くの先進国の漁業が経済的に成長を続けている。今の日本と同じような状況から、政治主導による政策の転換によって、漁業を成長産業に導いたという。これらの国に共通して導入されているのが個別漁獲枠制度「IQ制度」である。

IQ制度とは、十分な産卵親魚を確保できるように全体の漁獲枠を設定した上で、早獲り競争を防ぐために漁獲枠を個々の経営体に配分する資源管理手法である。IQ制度を導入することで、水産資源が生み出す価値を増やしつつ、得られた利益を漁業者間で公正に配分する。そして、①資源の持続可能な利用、②競争の緩和によるコスト削減、③魚のサイズ・品質の改善による単価の向上等の効果が期待できる。

このように漁業者が豊かになり、国民の食卓が豊かになる本政策は、アベノミクスよりよほど多くの恩恵をもたらすのではないかと感じている。

私の政策、河口擢開放と併せて実現できれば相乗効果で瀬戸内の漁業が再生するだろう。

競馬場跡地利活用について

競馬場跡地全景
経済リポート H26.4.1「祐介の目」

競馬場跡地利活用基本構想がほぼ固まった。基本構想には、「市民が幅広く気軽にスポーツ・健康づくりを楽しめる拠点とする核施設として、老朽化した市体育館を建替え新たな総合体育館を整備する。

また、芦田川との一体的な活用を図り、市民がウォーキングやジョギング等を気軽に楽しめる場を整備することも検討する。」とある。この基本構想が固まれば26年度より具体的な「跡地利活用基本計画」を策定し、その後に設計・施工、そして完成は約6年後の予定だ。

さて、芦田川河川敷と一体的なウォーキングコースが完成したらどうなるか？　私は福山マラソンの会場を競馬場跡地に移動してはどうかと思う。今大会は約8千人が参加し、私もハーフマラソンに出場して1時間56分で完走した。ところが会場の竹ケ端陸上競技場には多くの人が車で来場するため、駐車場が不足して周辺の渋滞もひどい。跡地に移動すれば、市中心部での開催ゆえにコース設定も多様化できるし、参加者の多くは自転車や公共交通機関を利用し、レース後の打ち上げ等で周辺も潤うだろう。一万人規模の大会も夢ではない。

次に総合体育館の新設に併せて、緑町のローズアリーナを通年プールにしてはどうだろう。現在、夏はプール、その他は体育館（アリーナ）とするため、春と秋に約2週間、年間一ヶ月は閉めて入替工事を行い、その費用は年間約千四百万円かかる。老朽化した水深調整設備の改修費用も年間数百万円必要であり、過去の包括外部監査人からも「通年プール」が提案されている。

福山では長年にわたり小学校6校の対抗水泳大会が開催されるなど、もともと水泳の盛んな地域だ。年間を通じて中国地方でも数少ない長水路（50mプール）で練習できれば、著しい競技力の向上が期待できる。ソチで金メダルを取った羽生選手の背景は、通年練習可能なスケートリンクの存在抜きには語れない。ぜひ福山からも水泳のオリンピック選手を輩出したい。

樋口季一郎（ひぐちきいちろう）とユダヤ人

永遠の四一・別冊
経済リポート H26.5.1「祐介の目」

東京の図書館や書店で「アンネの日記」等のユダヤ人迫害関連本が相次いで破られるという事件が発生し、容疑者が逮捕された。福山には「ホロコースト記念館」もあり、胸を痛めた人も多かったのではないか。そしてこの事件を機会として改めてユダヤ人迫害の歴史がクローズアップされた。

皆さんは、歩兵第四一連隊の第一七代連隊長・樋口季一郎とユダヤ人の関わりをご存知だろうか。樋口は福山の連隊長を務めた後、昭和一三年三月に満州国ハルピンの特務機関長となった。そこで多くのユダヤ人がナチスの迫害から逃れるため、ソ連・満州国の国境まで避難している事を知らされた。樋口は凍死者がでる惨状を見かね、独断でユダヤ人に対して給食と衣類・燃料を配給し、要救護者への加療を実施した。さらに出国の斡旋、満州国内への入植の斡旋、上海租界への移動の斡旋等を行ったそうだ。これは杉原千畝が〈命のビザ〉を発給する二年前のエピソードであり、一説には二万人のユダヤ人の命が救われたという。

敗戦後の二〇年八月一八日、ソ連軍は千島列島最北端の占守島に上陸してきた。北部軍司令官の樋口は、一五日に出された大本営の停戦命令を無視してこの千島侵攻部隊に痛撃を与えた。これにより北海道はソ連領となることを免れたと言われている。スターリンは樋口を戦犯に指名したが、世界ユダヤ協会はいち早くこの動きを察知し、世界中のユダヤ人コミュニティーが樋口救出運動を展開した結果、米国はソ連からの樋口引き渡し要求を拒否した。

杉原が「日本のシンドラー」と評価されるに対して樋口の名前があまりにも知られていないのはなぜか。それは彼が軍人であったからだろう。軍事に対するアレルギーは根強いが、東日本大震災を機会に自衛隊に対する評価も大きく変わった。樋口季一郎は福山との縁も深く、名誉市民にしてもおかしくないと個人的には感じている。軍人だったという理由で無視される国は日本くらいではなかろうか。

競馬場跡地の公園について

ローズアリーナ内部
経済リポート H26.6.1「祐介の目」

競馬場跡地利活用基本構想に対するパブリックコメントが実施された。市民より多数の意見が寄せられ、中でも「弓道場」、冒険遊び場「プレーパーク」、スケートボード・インラインスケート・BMX・ストリートダンス等ができる「ニュースポーツ広場」を求める意見が多数あった。

弓道場は竹ケ端に一ヶ所しかなく、福山市弓道の競技人口からすれば当然の要望であろう。次の冒険遊び場というと馴染みの無い人が多いかもしれないが、私は東京都世田谷区のど真ん中にある羽根木プレーパークを見学したことがある。住民のボランティアが常駐して焚き火ができたり、大きな木の間にロープを渡したターザンブランコがあったり、穴を掘ったりできる野性味あふれる公園であった。文部科学省の調査によれば「自然体験が豊富な子供ほど道徳観・正義感が充実」という結果も出ている。怪我をしたらどうするのかという懸念もあるが、自己責任で遊ぶことがルールだ。

最後のスケボーやインラインスケートは、路盤のタイルが割れたり他の利用者に対する危険があったりするので、福山市内すべての公園で禁止されている。しかし、このような臭いものに蓋をする方法で愛好者を締め出すことはもう限界ではないか。近隣の市町の多くは専用の公園を整備している。また、先のソチオリンピックのスノーボードで銀メダルを獲得した若干15歳の平野歩夢選手も、スケボー出身であった事は記憶に新しい。子供の遊びという認識の方も多いかもしれないが、実はプロとして活動している選手も多く、立派な競技スポーツと言える。

福山市の公園整備は広瀬と山手のグランドゴルフ場の整備等、高齢者向けに偏ってはいまいか。子供の学習環境整備に関する予算は学校の耐震化に多くを取られ、校庭の芝生化等にはなかなか回ってこない。学力向上がすべてではなく、多様な教育・スポーツ環境を整えることが福山市の将来的な発展に繋がるのではないかと思う。

「永遠の四一」を出版

店頭に並ぶ著書
経済リポート H26.7.1「祐介の目」

本を出版することがこれほど大変だとは思わなかった。資料収集・インタビュー・現地調査に3年、執筆と編集・校正に1年かかった。我ながら力作だと思うので、皆様にもぜひ読んでいただきたい。

「永遠の四一」取扱店

福山健康舎（大田病院売店）
啓文社各店・TSUTAYA各店・萬生堂（神辺）

さて、明治維新により譜代であった福山藩は没落し、さびれた城下町・福山の再生の切り札として明治四一年に誘致されたのが歩兵第四一連隊であった。以来、備後の郷土部隊として福山市の発展に貢献し、支那事変・大東亜戦争において郷土のために死力を尽くして戦った。現在の平和は彼らの犠牲のお蔭である。

ここまで言い切る理由は、四一連隊は一度全滅し、日本陸軍で最も酷使された悲運の連隊であったからである。来年は敗戦から70年、あの戦争を「悲惨」とか「愚か」という一言で片付けてはならない。総力戦の末に敗れたが、祖国を守り世界の歴史を変えた彼ら英霊を顕彰しないでどうするという思いだ。

英霊顕彰はただ祈りを捧げるだけでなく、父・祖父がいつどこで戦ったかという軍歴を調べて欲しい。これは県の社会援護課に問い合わせればわかる。墓参りに行ったら墓石の尖った軍人墓を探して、側面に彫ってある軍歴を読んでほしい。戦跡訪問もお勧めする。マレーシア、シンガポール、ニューギニア、レイテ島には私でもご案内できる。かつての戦場に当時の面影はほとんど残っていないが、現地の風土を知り、現地の食べ物を食べ、住民と交流すれば多くは親日的だ。郷土部隊の将兵がこの地で戦ったと思えば特別な思いも湧くだろう。

8月7日の夜は備後護国神社にて「みたま祭・前夜祭」が開催される。今年から多数の献灯された提灯を飾り、屋台を出して楽しいアトラクションも催し、英霊の皆様と杯を交わしたいと考えている。遺族でなくとも参加できるので、読者の皆様も参加してはいかがだろうか。

ニューギニア慰霊の旅

ニューギニアにて
経済リポート H26.8.1「祐介の目」

7月5日「永遠の四一」出版記念会を開催した。90歳を超える元兵士、高齢のご遺族にも参加いただき、改めて41連隊の歴史を偲び、不戦の誓いを新たにすることができた。

閉会後、その足で南海支隊戦友遺族会主催の東部ニューギニア慰霊の旅に参加した。南海支隊は、福山41連隊と高知144連隊の合同編成であり、米豪連合軍の拠点ポートモレスビーを攻略するべく、武器・弾薬・食糧を背負い4千メートル級の山々が連なるスタンレー山脈を越えて進攻するという無謀な作戦に従事した。結果、補給が続かずポートモレスビーを目前にして反転し上陸地点の海岸陣地に追い詰められ、連合軍の圧倒的な砲爆撃により地獄の戦場と化した。

福山41連隊はその9割に相当する2千名が戦死したが、その多くは餓死や病死であり、高知144連隊も同様であった。そのせいか、高知からは高知県知事代理・高知県議3名が参加され、県民の関心の高さをうかがわせた。対して福山からは市議1名であり、その差が鮮明であった。広島県・福山市は原爆と空襲に関しては熱心であるが、その他の戦争の歴史にあまりに無関心という印象を受ける。来年は敗戦から70年、福山からも多数参加して英霊の供養を行いたいものだ。

さて、現地ではランドクルーザーに分乗して悪路をひた走って数々の激戦地跡で慰霊祭を行い、大歓迎を受けた。パプアニューギニア（PNG）は大変な親日国であり、住民曰く「戦争は良くない、しかしあの戦争が無ければ我々は以前のままであった。独立も発展も無かった。」戦争中、初代首相のソマレ氏は日本軍が現地に開設した学校の生徒であり、PNG独立後に初来日された際に恩師のキャプテン・シバタ（柴田中尉）との再会を望まれ、40年ぶりに再会を果たした。

私達と入れ違いで安倍総理もPNGを訪問し、慰霊碑に参拝してソマレ氏とも面談された。PNGは天然ガスやレアメタルの産出国であり、福山41連隊が両国の絆に深く関与していることを忘れてはならない。

大赤字の芦田川河口堰

8年ぶりに全開した河口堰
経済リポート H26.10.1「祐介の目」

福山市上下水道局には3つの事業がある。水道事業と下水道事業と工業用水道事業だ。それぞれ別会計であり、水道事業は400億円、下水道事業は1000億円を超える事業債（借金）を抱えている。今後は老朽管の更新等に多額の費用が見込まれるうえに人口減少社会も到来し、経営状況は非常に厳しい。特に下水道は一般会計から赤字補填として約10億円の繰入金が無いとやっていけず、やむを得ず来年度から16・6%の使用料値上げとなる。

ところが工業用水道は平成25年度の単年度黒字が5億円を超え、事業債は33億円あるが内部留保資金は44億円もあり、実質的な無償金経営である。私はこの良い時にこそ将来に向けた投資をするべきと提案している。実は工業用水道の配水は①中津原系と②河口堰系の2系統に分かれている。中津原からは1日約18万トンの工業用水を配水して売上げは20億円、経費は11億円、差引き9億円の黒字だ。対して河口堰からはわずか5万トンを配水して売上げは7億円、経費は11億円、差引き4億円の赤字である。

中津原と河口堰を合算して5億円の黒字というわけだ。この収支状況は私が上下水道局に資料要求したデータを基に独自に分析したものだが、民間の企業経営者なら迷わず中津原から全量配水を考えることと思う。さらに河口堰は耐震補強工事の必要性もあり、水道と同様に将来的に老朽管の更新に多額の資金が必要となる見込みである。

完成から40年経過した河口堰もそろそろ運用を見直す時期が来たのではないか。私はまず耐震補強工事に合わせて、より環境に配慮したゲートに改修するべきと考えている。お手本は4種類の魚道を整備し、上下に可動するゲートを持つ長良川河口堰だ。さらに中津原から1日20万トン配水可能に改修し、JFEにもより節水を依頼して、その分工業用水の単価を下げるのも一案。河口堰は塩害防止と渇水期のバックアップとしてのみ、その機能を発揮すれば良い。